



#121 cognou et musées français

ベルギーの冬の特別パン、クニユについての話題。人気パン店ロワンモンターニュの遠山広さんのお話。仏の美術館博物館の情報塔『メゾン・デ・ミュゼ・ド・フランス』のベンジャミン・ヌーヴェルさんインタビュー。レッスンは彼のコメントから。

☆パーソナリティ

ボブ & ちなみ

☆今週のゲスト

遠山広さん

ロワンモンターニュ オーナーシェフ

Benjamin Nouvelさん

Chargé du service d'information

Générique et intro

Le 20 décembre 2008, numéro cent vingt-et-un de chocolat, magazine bilingue français – japonais.

Un boulanger japonais et une tradition belge de Noël : le cognou.

Une boutique des musées français à Ginza, la Maison des Musées de France.

『遠山広さん...』

ベルギーの冬に買えるパン・クニユ。遠山さんのおかげで日本でも購入できます。ショコラ特別販売を企画してくださったので、よろしければご利用くださいね。

Le cognou est une sorte de pain brioche que l'on vend en Belgique à la période de Noël. Au Japon, le boulanger "Loin Montagne" ne le vend que pendant une semaine. Le cognou a une forme qui fait penser à un bébé.

覚えよう petit à petit♪

centre d'information

インフォメーションセンター

d'une part

ひとつには

documentation

資料、文献

province

地方、田舎

se procurer

入手する、得る

du moment

その時期の

projeter...

...を計画する

recherche

探索、研究

de soi-même

自分から、自分の意志で

thématique

テーマ(ごと)の

vécu < vivre

生きる、暮らす

jour férié

祝日、祭日

Benjamin...

Benjamin est en charge du centre de documentation. On y trouve tout, ou presque, sur les expos et les musées en France.

Benjamin : D'abord, la Maison des Musées de France c'est un lieu à Ginza, (c'est) une boutique et un centre d'information sur les musées français.

Bob : Un centre d'information? Qu'est-ce qu'on peut y trouver comme information?

Benjamin : On peut y trouver, alors, d'une part, de la documentation : nous avons plus de mille ouvrages, surtout en français, mais aussi en japonais et en anglais sur les musées de France, donc les musées de Paris, les musées de province. Il y a des guides, des albums de musées et beaucoup de catalogues sur les expositions. Nous essayons de nous procurer les catalogues des expositions du moment afin de pouvoir découvrir ces expositions depuis Tokyo.

Bob : Bien. Donc, si par exemple je projette de faire un voyage à Paris en janvier, je peux aller là-bas et dire "qu'est-ce qu'il y a d'intéressant dans les musées français en janvier?"

Benjamin : Oui, tout à fait. Alors, il y a toujours une personne qui vous répondra avec grand plaisir, donc une personne japonaise, mais qui lit le français, qui peut aussi vous aider dans vos recherches, et vous pourrez découvrir de vous-même, donc en regardant les catalogues, les expositions du moment et voir si ça vous intéresse.

Bob : Est-ce qu'une recherche thématique est possible? Par exemple, cette fois je vais voir et je dis : "je m'intéresse beaucoup à Foujita, je vais à Paris, qu'est-ce que je peux voir sur Foujita à Paris?" C'est possible aussi?

Benjamin : On pourra vous montrer déjà les documents qu'on a, et puis on pourra avec vous faire des recherches sur Internet, si vous avez des demandes plus spécifiques. Donc, Foujita par exemple qui va être présent dans quelques musées français, mais pas seulement à Paris. On va aussi vous dire qu'il y a sa maison, la dernière maison où il a vécu, qui est près de Paris, qu'on peut visiter. Il y a une chapelle à Reims qu'il a peinte. Donc, tout cela, on pourra vous l'expliquer, puis vous préciser où aller pour voir les oeuvres de Foujita.

Bob : Ça coûte combien?

Benjamin : Ça ne coûte rien du tout parce que c'est ouvert, donc, à tous, l'entrée est totalement libre, et c'est ouvert tous les jours du lundi au samedi donc, c'est fermé uniquement le dimanche et les jours fériés.

ビデオの仏文

Bob: La Maison des Musées de France, qu'est-ce que c'est?

Benjamin: Alors, c'est un centre d'information et une boutique qui ont été ouverts en 2003, pour présenter les musées français et leurs activités.

Bob: Et au-dessus, qu'est-ce qu'il y a?

Benjamin: Alors, au-dessus, il y a la boutique, et dans cette boutique, on vend des produits des musées français.

petite leçon: ぶんぼう一口メモ

1) フランス語の基本

1-1) 《**tout**》(すべて、あらゆる)の使い方

《**tout**》は、ごく頻繁に使われる語ですが、それだけに文法的役割(不定形容詞/不定代名詞/副詞/名詞)が複雑なだけでなく、使い方もさまざまで、微妙な違いがあります。辞書を見るとあまりにも多くの記述があって、どこを見ればいいのか混乱してしまいそうです。そこでとりあえず本文に出ている例をとりあげ、整理してみましょう。これらはいずれもごく重要な表現ばかりです。

Oui, tout à fait(1).(ええ、まったくそのとおりです。)

Donc, tout cela(2), on pourra vous l'expliquer...(ですから、そうしたことをすべてあなたに説明できるでしょう。)

Ça ne coûte rien du tout(3) parce que c'est ouvert (...) à tous(4), l'entrée est totalement libre, et c'est ouvert tous les jours(5) du lundi au samedi ... (一銭もかかりませんよ。というのは、

[MMF]はあらゆる人に開かれていて、入場はまったく自由ですから。月曜から土曜まで毎日開いています。)

(1) tout à fait(まったく、すっかり) [副詞/熟語]

例) - **tout de suite**(すぐに) - **tout d'abord**(まずはじめに)

(2) tout cela(すべてのそうしたこと) [不定形容詞**tout**+指示代名詞]

例) - **C'est tout ce que je veux dire.** (それが私が言いたいことのすべてです。)

(3) ne ...rien du tout (全然、まったく-ない) [名詞]

例) - **Je n'ai plus d'argent du tout.** (ぼくはもう全然お金がないよ。)

(4) à tous (皆に) [不定代名詞]

この**tous**は、「あらゆる人」「みんな」という意味で、[**tus**]と《**s**》を発音します。⇒ Chocolat#46参照

例) - **Ils sont tous d'accord.** (彼らは全員が賛成です。)

(5) tous les jours(毎日) [不定形容詞]

例) - **toute la journée** (一日中)

- **Toutes les boutiques sont fermées.** (すべてのブティックがみな閉っています。)

1-2) 価格や金額を尋ねる《**combien**》(いくら?)

物の値段や入場料を尋ねる「いくらですか?」という表現を覚えましょう。

Ça coûte combien? — Ça ne coûte rien du tout...([入場料は]いくらですか? — 一銭もかかりません...)

《**Ça coûte combien?**》は、価格を尋ねるさいのごく一般的な言い方です。動詞**coûter**は「費用がかかる、値段が〜である」という意味です。

例) 動詞を**faire**に変えて、《**Ça fait combien?**》(いくらになりますか?)と言っても同じです。少し丁寧に相手に支払い額を尋ねるときは、《**Je vous dois combien?**》と言ってもいいでしょう(つまり、「私はあなたにいくらお支払いすればいいですか?」という意味です)。

また、ごく簡単に、《**C'est combien?**》と言うこともできます。更には単に《**Combien?**》(いくら?)と言ってもかまいません。

ただし、《**Combien?**》(どれだけ? どのくらい?)という疑問詞は、必ずしも金額を尋ねるとは限らず、いろいろな場面で使われ、まぎらわしいこともありますので注意しましょう。

例) - **Vous êtes combien? — Nous sommes cinq.** ([レストランなどで]何人様ですか? — 五人です。)

- **Combien pèses-tu? — Je pèse 70 kilos.** (君の体重は? — 70キロだよ。)

- **Le combien sommes-nous aujourd'hui? — Le 24 décembre, la veille de Noël!** (今日は何日ですか? — 12月24日、クリスマス・イヴですよ!)

注) 《**combien**》の用法については、Chocolat#76もご覧ください。

2) フランス語のコツ

《**afin de + 不定詞**》(〜するために) / 《**pour + 不定詞**》(〜するために)

1) 《**afin de + 不定詞**》は、目的(〜するために)を明示するさいに使うやや硬い表現です。

• ... **afin de pouvoir découvrir ces expositions depuis Tokyo** (東京にいてこれらの展覧会のことを知ることができるようにするには...)

例) **Ils font des économies afin de se procurer une maison.** (彼らは家を手に入れるために節約している。)

2) 《**pour + 不定詞**》(〜するために、するように)も同じく目的を示しますが、平易ですっとよく使われる表現です。

例) - ... **où aller pour voir les oeuvres de Foujita** (フジタの作品を見るためにはどこに行くか...)

- **Il ne travaille que pour gagner de l'argent.** (彼は金を稼ぐためにだけ働く。)

3) ただし、《**pour + 不定詞**》は、目的ばかりでなく、継起や結果(...、そして...となる)などを表すこともあり、《**afin de**》よりずっと幅広く使われます。

例) - **Elle est partie pour ne plus revenir.** (彼女はたち去り、もう戻ってはこなかった。)

銀座のメゾン・デ・ミュゼ・ド・フランス

今回は、東京・銀座にあるメゾン・デ・ミュゼ・ド・フランス(MMF)の**Benjamin Nouvel**さんのお話です。この会館は、フランスの美術館や美術展についての案内および情報提供を無料でおこなっています。美術の好きな方は、フランス旅行に発つ前に、見たい画家や作品の情報をここで集めておくといいでしょう。インフォメーションセンターの担当者が、資料やインターネットを使って適切なものを詳しく紹介してくれます。

Maison des Musées de France (MMF) メゾン・デ・ミュゼ・ド・フランス
 東京都中央区銀座7-7-4、DNP銀座アネックス。地下鉄・銀座駅から徒歩5分。
 1F-2Fはブティック、3Fはギャラリー、B1はインフォメーションセンター。
 開館時間：11-19時（ただし、インフォメーションセンターは13-14時が昼休み）
 休館日： 日曜、祝日

1月にフランスに行く予定のボブさんは、バンジャマンさんにこう尋ねます。「私は藤田嗣治にとっても興味があり、まもなくパリに行きますが、フジタについてパリで何が見られますか？ **"je m'intéresse beaucoup à Foujita, je vais à Paris, qu'est-ce que je peux voir sur Foujita à Paris?"**」。これに答えてバンジャマンさんは、フジタに出会いたいなら、パリだけでなく **pas seulement à Paris**、パリのすぐ南のエソンヌ **Essonne** 県にある「晩年を彼が過ごした家 **la dernière maison où il a vécu**」を訪ねるよう勧めています。さらに、ゴシック大聖堂で有名なランス市まで行けば、フジタが壁画を描いたチャペル **une chapelle à Reims qu'il a peinte**（「平和の聖母礼拝堂 **Chapelle Notre-Dame de la Paix**」—別名「フジタのチャペル **Chapelle Foujita**」）もあります。このようにMMFでは、自分が見たい画家のどの作品がどこにあるかを詳しく説明して **vous préciser où aller pour voir les oeuvres de Foujita** くれるのです。

レオナール・フジタ展を見て

藤田嗣治(1886-1968)没後40周年を記念して、レオナール・フジタ回顧展が上野の森美術館(東京・上野公園内)で開かれています(1月18日まで)。【⇒ 前々回のChocolat#119には、上野の森美術館学芸員・坂本明美さんの解説があります。】

会場に入ってまず目にする初期の作品は、スーチンやモディリアーニなど、いわゆるエコール・ド・パリの仲間たちとの交流の影響がみられます(たとえば、フジタの妖艶な女性の裸体像を見ると、モディリアーニの[首の長い女性像ではなく]豊満なヌード像が思いだされます)。他方、フジタがその後もずっと保持する日本画風のスタイルの作品があり、そこには彼が生きた大正時代の雰囲気も感じられます。そしていうまでもなく、フジタが発明した特異な乳白色には、ピカソやブラックの抽象画にも後のダダやシュールレアリズムにも与せず、独自の具象性を追求したこの画家の独創性がすでに現れています。

さて、230点に及ぶ展示作品のなかでもっとも目を惹くのは、なんといっても幻の四部作「ライオンのいる構図」「犬のいる構図」「争闘I」「争闘II」(1928年制作、エソンヌ県議会蔵)でしょう。この作品は、第二次大戦中はかつての恋人だったユキの手でひそかに保管され、フジタの帰仏後は倉庫に放置されていました。1992年に発見された後、6年間にわたる修復を経て今日本で公開されています。

各図が幅4メートルもあるこの大作は、全体を包む乳白色を基調に、白と薄茶色の多数の人体や動物が乱舞しています。色彩がほとんどないモノクロームに近い全画面は多数の男女の肉体で覆われ、その周囲に、ライオンや犬や猫などの動物像が散在します。こうした身体図像は、まるで白い背景の平面から、少し浮き上がっているようにも見えますし、乳白色の壁面にやや埋め込まれているように感じられます。だから、白い大理石のなかから人体像を浮き出させたミケランジェロの未完の彫刻群を想起してもいいでしょう。このヌード群像を描く数年前にイタリアを旅したフジタは、風景を切り捨ててひたすら肉体描写に執着したミケランジェロの「最後の審判」に感動したといえます。

しかしフジタの場合、日本画の表現スタイルを受け継いでいるため、全体としてきわめて平面的であり、西欧画のような透視図法的立体感はありません。ヌード像は、たとえ筋肉がたくましく浮き立っていても、白い平面の中に奥行きをもたずに配され貼り付けられているかのようで、モノクロームな色調ともあいまって茫漠とした夢幻的雰囲気をかもしだしています。

圧倒的な人体像のほかに、フジタの作品のあちこちには、ライオンや馬などの動物像がみられます。なかでもとくに多いのは猫の図です。猫には野獣性と家畜性(言いかえれば、ペットらしさ)という二つの面がある、とフジタは述べています。そして彼自身はとくに野獣性に惹かれたようです。横長の屏風画「猫」(1936年)は、墨絵風の描写を通じて、野生の形相ものすごく魚を奪い合う猫たちのダイナミックな姿が、ゆらめく帯のように流麗な連なりをつくっています。

晩年のフジタはカトリックに改宗し、ルネサンス絵画を模した宗教画を描きました。こうした作品では、技法のいっそうの洗練と円熟がみられる一方、かつての個性や独創性は影をひそめます(この点に限って言えば、若い頃は自己顕示性が強く、晩年になってカトリックに改宗したダリと心性面で共通点があるかもしれません)。しかし、彼が晩年の努力を傾けた「平和の聖母礼拝堂」(1966年)は、ネオ・ロマネスク風の美しい小教会堂で、彼はここにフレスコ画やステンドグラスですばらしい装飾をほどこしました。最後に、絵画修復に関心のある方は、修復家たちによる長く根気のいる作業の記録がスクリーン上で見られます。